

ひなたフェス 2024 の九州における経済波及効果について

～九州全体における経済波及効果は 43.3 億円

2024 年 12 月 19 日

公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部

公益財団法人九州経済調査協会では、2024 年 9 月 7 日（土）～8 日（日）に宮崎市で実施された「ひなたフェス 2024」の九州全体への経済波及効果をはじめて把握した。観光消費額の把握にあたっては、宮崎市のご協力のもと、ひなたフェス 2024 の開催当日に、宮崎市ブースにて独自のアンケート調査（『ひなたフェス 2024』来場者アンケート）を実施した（回収数：1,053 件）。弊会が独自に作成した地域間産業連関表を活用することで、九州全県への波及の広がり把握した。合わせて、弊会の観光人流分析プラットフォーム「おでかけウォッチャー」を活用することで、来訪の状況や広域的な人流（観光周遊）の実態を把握した。

【全体の要約】

- 九州における経済波及効果（総合効果）は 43.3 億円。県別では、宮崎県が 32.7 億円（76%）、宮崎県以外が 10.6 億円（24%）と広域に効果が波及。
- 地域別の観光消費額は、開催地の宮崎市が約 6 割で、約 3 割が県内各市町村、約 1 割が県外。
- 過去のイベントと比較して、圧倒的に遠方（20km 会場から離れた場所からの来場者のうち、76%が 300km 以上）からの来場が多いという特徴あり。
- 宿泊日数では「2 泊」が最も多く、3 割強を占める。4 泊以上も 1 割強を占めており、ひなたフェスの前後で宮崎県・九州各地を周遊していることがうかがえる。
- 周遊先として、日向市をはじめ、日向坂 46 と縁のある観光地を中心に広域で周遊行動がみられた。
- ひなたフェス 2024 は、経済効果にとどまらない、共感の輪を広げつながりあう「エンタメ×地域」による新たな価値共創のあり方を提示。

1. 九州における経済波及効果は 43.3 億円

総合効果は 43.3 億円。内訳は、直接効果が 24.3 億円、第 1 次間接効果が 13.2 億円、第 2 次波及（間接）効果が 5.8 億円であった。

県別の総合効果は、宮崎県が 32.7 億円（シェア：76%）、次いで鹿児島県で 5.1 億円（同 12%）と続く。

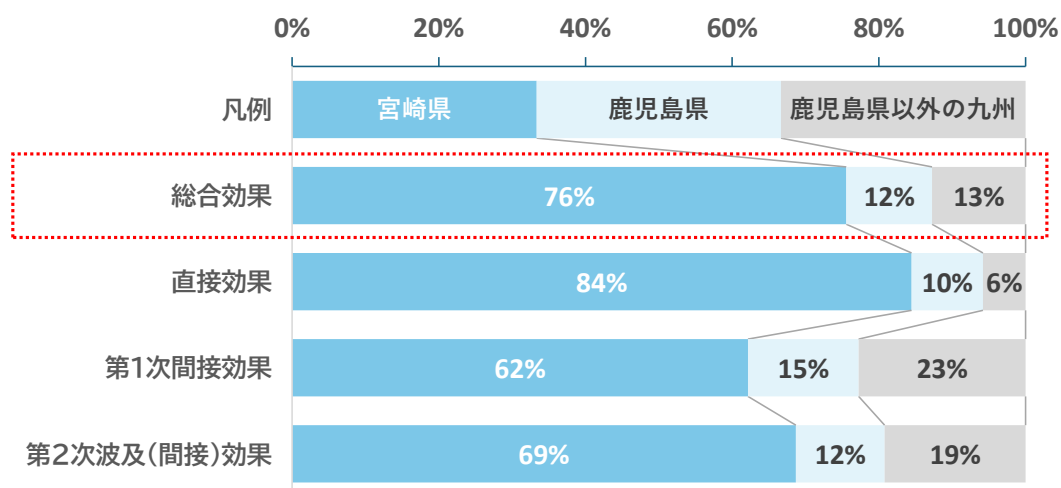
図表 1 九州における経済波及効果

(百万円)

	総合効果	第 1 次波及効果			第 2 次波及効果
			直接効果	第 1 次間接効果	
九州 7 県計	4,328	3,750	2,431	1,319	578
宮崎県	3,270	2,873	2,053	820	397
鹿児島県	506	436	237	199	70
福岡県	265	206	52	154	59
佐賀県	24	19	3	16	5
長崎県	29	22	2	20	7
熊本県	148	122	62	60	26
大分県	86	72	22	50	14

資料) 九経調作成

図表 2 九州における経済波及効果



資料) 九経調作成

2. 九州全体の観光消費額は 25.4 億円。3～4 割が県内外にも広く波及

九州における観光消費額は、全体で 25.4 億円。費目の内訳は、宿泊費が約 8.9 億円、飲食費が約 4.3 億円、お土産代・その他物販費が約 3.6 億円、娯楽費等が約 2.8 億円、交通費が約 5.9 億円となっている。

「宿泊費」は宮崎市が約 7 割を、宮崎市以外の県内市町村が約 2 割、1 割弱を宮崎県以外の九州が占める。

「飲食費」、「お土産代・その他物販費」、「娯楽費等」はいずれも宮崎市が 6 割弱を、宮崎市以外の県内市町村が 3 割弱、15%前後を宮崎県以外の九州が占める。

宮崎県内で広く観光周遊が行われたほか、県外にも宿泊や空港利用などの消費の波及が及んでいる。

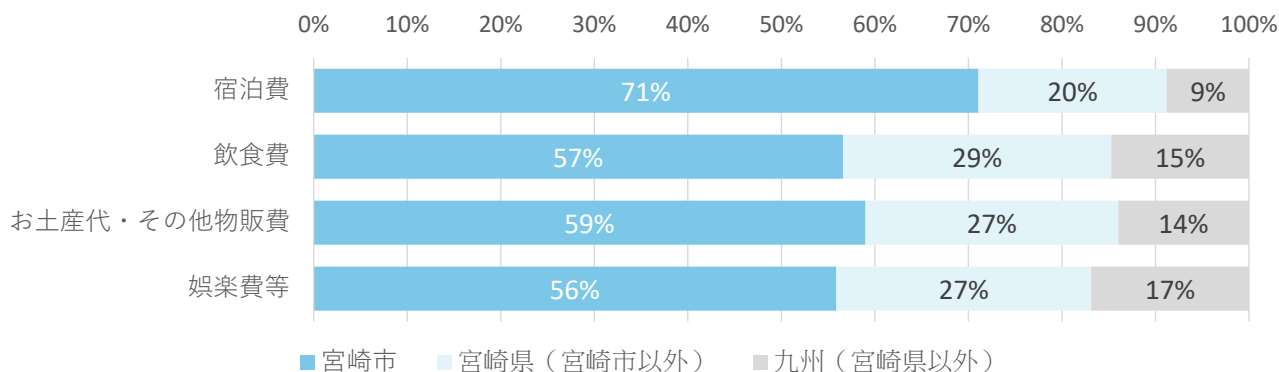
図表 3 九州における観光消費額

(百万円、%)

	消費額	構成比
総額	2,542	100.0
宿泊費	885	34.8
飲食費	427	16.8
お土産代・その他物販費	359	14.1
娯楽費等（観光施設・サービス利用料）	283	11.2
交通費	587	23.1

資料)「『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

図表 4 地域別観光消費額の割合

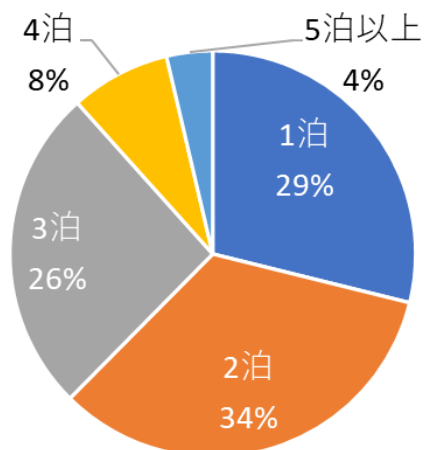


資料)「『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

3. 九州における宿泊日数は平均 2.26 日。4 泊以上も 1 割強

宿泊者の九州における平均宿泊日数は 2.26 日。「2 泊」が最も多く、3 割強を占める。4 泊以上も 1 割強を占めることから、ひなたフェスの前後で宮崎県・九州各地の観光地を周遊していたことがうかがえる。

図表 5 旅程全体における九州での宿泊日数

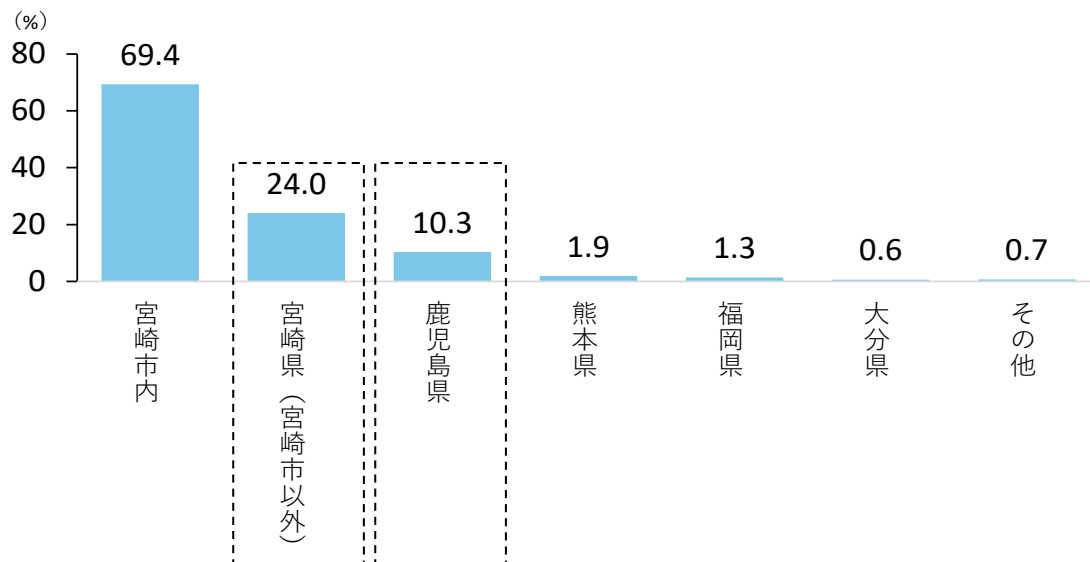


資料) 『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

4. 宿泊地が広域に分散したことで、効果が広域に波及

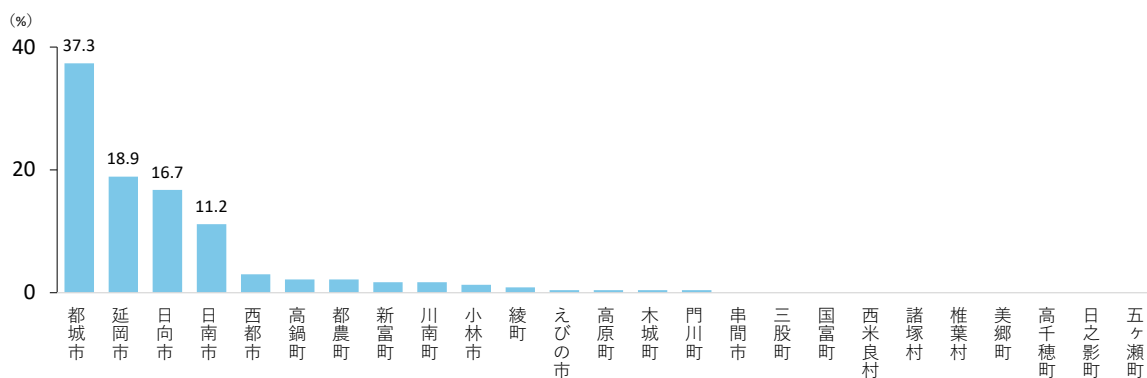
宿泊者のうち、約 1/4 は宮崎県内の各市町村に宿泊、約 1 割は鹿児島県に宿泊しており、宮崎市にとどまらず県内外にも消費が広く波及。宮崎県内の各市町村に宿泊した人の宿泊地は、都城市が最多となっており、延岡市、日向市、日南市と続く。

図表 6 宿泊地の割合



資料) 『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

図表 7 宮崎市以外の宮崎県内の宿泊者の宿泊地別割合



注) 宮崎市を除く宮崎県内の宿泊者数を 100 として算出。

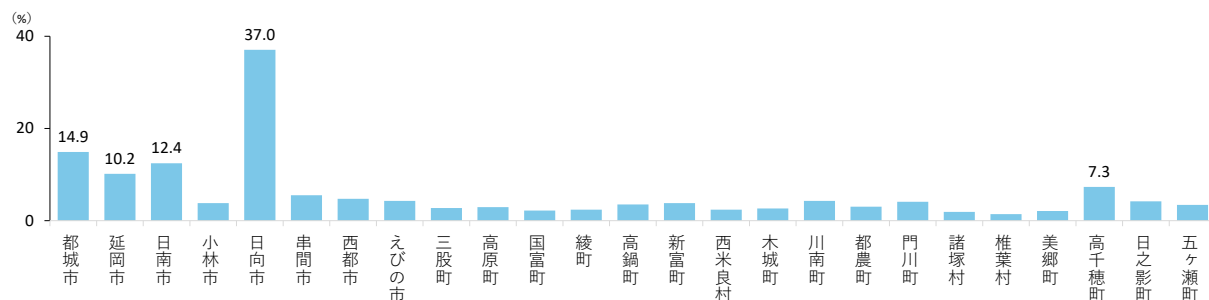
資料) 『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

5. 各市町村とのコラボ企画等により、多くのおひさま（ファン）が宮崎県内の各市町村を訪問

宮崎県内で訪れた市町村をたずねたところ、宮崎市以外では、駅名を「日向坂 46 駅」に改名するなど積極的なコラボ活動を実施した日向市が最多となった。全市町村とメンバーとのコラボ企画などもあり、幅広い自治体に訪問。宮崎県内の主要観光地である高千穂町も比較的多く、一般の観光行動にも結び付いている。

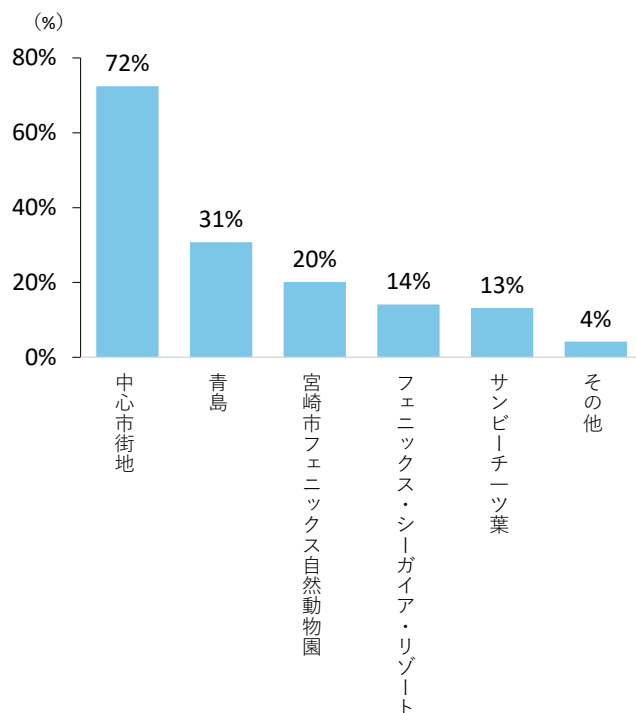
宮崎市は、ロケ地等の舞台となった観光地をまとめた「宮崎しか勝たん MAP」を作成。ロケ地等の舞台や、メンバー考案「フェス飯」が食べられる中心市街地の飲食店などを多くのおひさま（ファン）が訪問。

図表 8 宮崎県内の各市町村の訪問割合



資料)『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

図表 9 ロケ地となった宮崎市内の各観光地の訪問割合

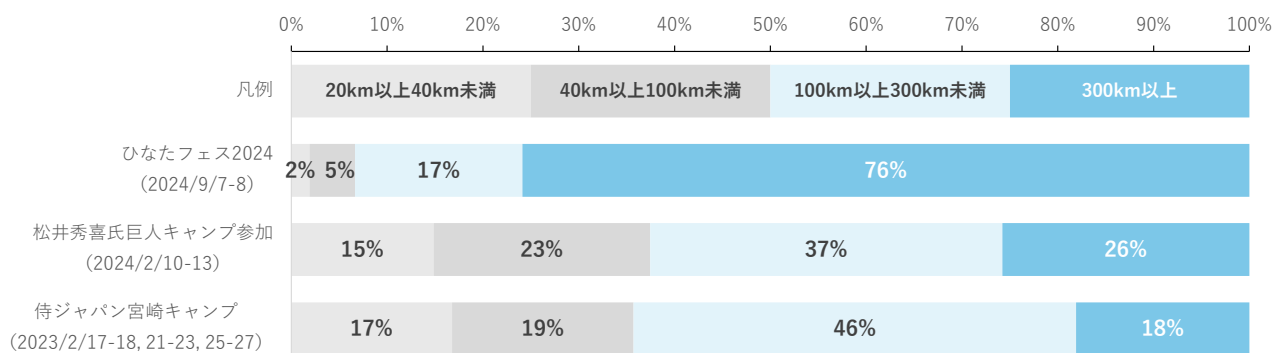


資料)『ひなたフェス 2024』来場者アンケート」調査より九経調作成

6. 過去の主要イベントと比較して、遠方からの来場者数が多い

スマートフォンの位置情報データを活用した観光入込に関する分析ツール「おでかけウォッチャー」の人流データをもとに、来訪者の居住地からの距離帯別で分析すると、ひなたフェス 2024 では、20km 以上の遠方からの来場者数のうち、76%が「300km 以上」で最多となっている。2024 年 2 月の松井秀喜氏の巨人キャンプ参加期間や、2023 年 2 月の侍ジャパン宮崎キャンプの期間と比較して、圧倒的に遠方からの来場者数が多い。

図表 10 「宮崎県総合運動公園」の各イベントの来訪者数の距離帯別の割合（20km 以上遠方の来場者のうち）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー」をもとに作成

7. フェス前後に日向坂 46 と縁のある県内の各観光地を広域周遊（日向市「日向岬 馬ケ背」の例）

日向市では、フェス開催に合わせて「願いが叶うクルスの海展望台」へ続く坂道の愛称が『日向坂（ひなたざか）』に。『日向坂』を含むエリアのスポットでは、フェス翌日である 9 月 9 日（月）に、平日にもかかわらず多くの訪問があった。次に多かった日が 9 月 6 日（金）であり、フェス前後で広域に日向坂 46 ゆかりの観光地を周遊していることがうかがえる。

図表 11 「日向岬 馬ケ背」の平日の日別来訪者数（指数）の推移（指数：2019 平均=100）



注) 2019 年平均=100 (平日のみ)

資料) 九経調「おでかけウォッチャー」をもとに作成

図表 12 日向坂 46 四期生のお披露目動画の撮影地となった「クルスの海」



資料) 九経調撮影

8. 経済面にとどまらない効果：エンタメと地域の新たな価値共創のあり方を提示

地域の産学官民の多様な主体が運営と密接に連携し、受け入れ態勢を整備。共感の広まりにより、地域・メンバー・おひさま（ファン）・運営が一体となって創るフェスに（ex.観光マップの作成、自主的な勉強会、ひなたフェス対策本部、ゴミ拾い活動など）。地域一体となったおもてなしが、おひさま（ファン）の地域への愛着や貢献意識・行動（寄付、応援消費など）にもつながっている。また、ひなたフェス 2024 は、前後の旅程も含めて、一グループのライブ参加という枠を超えて、「宮崎」「九州」を味わう総合コンテンツとして機能し、「宮崎」「九州」の地域全体の魅力を伝えることに貢献。

図表 13 「SNOOPY Loves NATURE “Team up!”in ひなたフェス 2024」の
ゴミ拾い活動の様子。メンバーもサプライズで参加した。



©Seed & FlowerLLC

図表 14 宮崎市・宮崎市観光協会が設置した歓迎フラッグ



資料) 宮崎市 HP

参考資料

1. おでかけウォッチャーの概要

■目的

コンセプトは「デジタル観光統計を身近に」。観光に係わる人流の動きの可視化による政策立案の支援。
ひいては観光産業や観光による地域の活性化につなげる。

■特徴

スマートフォンの位置情報データを活用した観光入込に関するマーケティングデータの提供ならびにコンサルティングサービス。

スマートフォンの位置情報に関するビッグデータは、位置情報マーケティング事業を展開するプログウォッチャーからの提供（3,000 万 MAU の位置情報データ（Profile Passport）を活用）。

観光スポットごとの人流データを日次で把握可能。

非日常の利用・観光行動を把握するため、発地から 20km 以上離れた来訪をカウント。

【公益財団法人九州経済調査協会 概要】

九州・沖縄・山口の経済や社会、産業の調査研究や政策提言を行う、1946年創立の内閣府認可のシンクタンク。地域経済の調査研究のほか、デジタル観光統計「おでかけウォッチャー」や地域経済分析プラットフォーム「データサラダ」などデータプラットフォームの運営も手がける。

九州・沖縄・山口の約600法人・自治体から支援を受け、地域経済の活性化に取り組む。

<https://www.kerc.or.jp/>

【問い合わせ先】

公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部 研究員 秋野 隆士

TEL 092-721-4905 mail : akino@kerc.or.jp